

事 務 連 絡
令和 6 年 8 月 23 日

日本精神科病院協会会長 殿

厚生労働省医政局地域医療計画課
医療安全推進・医務指導室

放射線被ばく管理に関する
労働安全衛生マネジメントシステム導入支援事業（周知依頼）

医療行政の推進につきましては、平素から格別の御高配を賜り厚く御礼申し上げます。

医療機関における放射線業務に従事する方の健康被害を防止するため、職業被ばく管理の改善に組織的に取り組み、放射線管理体制を強化していただく、「放射線被曝管理に関する労働安全衛生マネジメントシステム導入支援事業」（<https://www.rad-ms.mhlw.go.jp/>）について、令和 2 年度から弊省労働基準局安全衛生部労働衛生課電離放射線労働者健康対策室で行っております。

本事業では、無料の研修に加え、被ばく低減・放射線管理に課題等を抱える医療機関の皆様に被ばく低減対策等について、実務的な知識・経験を有する専門家による相談窓口を設置しております。

つきましては、別添の資料を貴会会員へ周知方よろしく願いいたします。

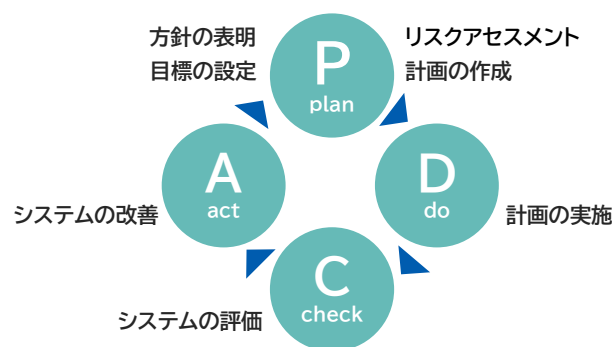
放射線被ばく管理に関する 労働安全衛生マネジメントシステム 導入支援事業のご案内

放射線業務を行う
医療機関必見

改正電離放射線障害防止規則が令和3年4月に施行され、眼の水晶体に受ける等価線量の限度値が大幅に引き下げられました。法令遵守を前提とし、放射線業務従事者の被ばく低減に組織的に取り組んで健康障害を防止するためには、労働安全衛生マネジメントシステムの活用が有効です。

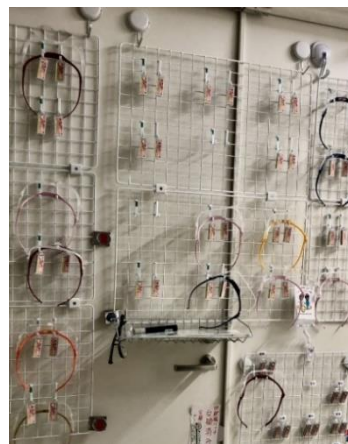
厚生労働省の第14次労働災害防止計画に「医療機関に対して、放射線被ばく管理に関する労働安全衛生マネジメントシステムの導入を支援する」と明示されています。

本事業では、研修等(詳細は裏面をご参照ください)を通じて放射線管理体制の強化を支援します。



放射線MSを導入したことによる好事例

- ◆ 放射線防護検討委員会の発足や、衛生委員会の委員に放射線管理室の職員が任命されるなど、体制の改善が図られた。
- ◆ トップマネジメントにより、放射線安全委員会、衛生委員会、医療放射線安全委員会により放射線管理を行っており、監査や細かいところのリスクマネジメントなどがMSにより改善された。
- ◆ 研修会で提供された文書をもとに機関の実情に合わせながら、放射線MS運用に必要な書類等を作成している。



撮影室の近くにラックを設置して個人線量計や防護メガネ等を装着する流れを作った例

当事業では
好事例を発掘して
配信しています。
詳しくはこちら▼



※放射線MSとは、放射線被ばく管理に関する労働安全衛生マネジメントシステムの呼称

お申込み

事前の参加登録が必要ですので、左記厚生労働省のウェブサイト「研修等申込み」よりお申込みください。

ウェブサイト

<https://www.rad-ms.mhlw.go.jp/>

最新情報

X (旧Twitter)

アカウント名: MS導入支援事務局
@rad.ms2022

お問い合わせ | 厚生労働省放射線MS担当 TEL: 03-3830-0720 (直通) メールアドレス: ms-info@rad-ms.mhlw.go.jp

本事業は、厚生労働省の委託業務として、公益財団法人原子力安全技術センターが 関係機関の協賛・協力を得て実施するものです。

協賛: 公益社団法人日本診療放射線技師会、
一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会



公益財団法人
原子力安全技術センター



ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

放射線被ばく管理マネジメントシステム導入支援 イベント内容

基礎研修		専門研修	報告会
9,10月 開催		10月 開催	2月 開催
第1回	労働安全(法)と放射線MSの仕組	内部監査の視点、計画、実施、報告、および内部監査員の育成 等	放射線MS導入、運用の好事例の報告と有識者等による討論
	9月30日(月) 13:00~16:00	初めて参加の方 内部監査の概要と計画	初めて参加の方 放射線MSの取り組み事例
	目標、計画の設定	参加経験のある方 監査のPDCAと監査員育成	参加経験のある方 放射線MSの改善を学ぶ
第2回	10月7日(月) 13:00~16:00	※ 本研修は参加経験の有無にかかわらず、上記の内容が含まれています。	※ 本報告会は参加経験の有無にかかわらず、上記の内容が含まれています。
第3回	監査、改善	10月28日(月) 講義 13:00~16:00 演習 16:00~17:30	2月20日(木) 13:00~16:00
	10月21日(月) 13:00~16:00		※ お申込みいただいた方へ開催1ヶ月前頃にZoomウェビナーへの参加登録のためのご案内をいたします。



予定講師(基礎研修、専門研修)

梶木 繁之

株式会社 産業保健コンサルティングアルク 代表
一般社団法人 日本労働安全衛生コンサルタント会 福岡支部副支部長
(労働衛生コンサルタント)
産業医科大学 産業衛生教授
TC283 国内審議委員会委員、ISO45001審査員

- ※ 日本診療放射線技師会の生涯教育システム(カウント付与)対象です。(報告会は対象外)
- ※ 当日参加できなかった方は、後日Webサイトで録画映像の視聴が可能です。
- ※ テキストや作業マニュアル等については、サイトよりダウンロードが可能です。
- ※ 参加費は無料です。
- ※ 国が推進している本研修等の参加をきっかけに、多数の事業場が放射線MSを導入して成果を出しています。
- ※ 都合により、内容等が変更になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

被ばく低減・放射線管理の
課題を解決しましょう！！



公益財団法人
原子力安全技術センター



ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

令和6年度 放射線被ばく管理に関する 労働安全衛生マネジメントシステム導入支援事業

—『相談窓口』のご案内—

相談無料

改正電離放射線障害防止規則が令和3年4月に施行され、眼の水晶体に受ける等価線量の限度値が大幅に引き下げられました。法令遵守を前提とし、放射線業務従事者の被ばく低減に組織的に取り組んで健康障害を防止するためには、労働安全衛生マネジメントシステムの活用が有効です。

厚生労働省の第14次労働災害防止計画に「医療機関に対して、放射線被ばく管理に関する労働安全衛生マネジメントシステムの導入を支援する」と明示されています。

本事業では、放射線管理体制を強化するため、被ばく低減・放射線管理に課題等を抱える医療機関の皆様には被ばく低減対策等について、実務的な知識・経験を有する専門家による相談窓口を設置しましたので、相談をご希望の方は、Webサイトよりお申込みください。

相談例

- ★ 放射線管理を行うための年間目標、計画の立案方法について
- ★ 被ばく線量の記録と管理の方法について
- ★ 電離放射線健康診断の実施（労働基準監督署への報告義務）について
- ★ 放射線業務従事者に対する特別の教育について
- ★ 個人線量計の装着率や放射線防護具の着用率向上のための方法について
- ★ IVR等の手技中の適切な線量測定方法と被ばく線量の低減対策について

相談窓口

期 間	令和6年6月～令和7年2月
時 間	30分から最大1時間程度
方 法	オンライン(Zoom)のWeb会議 ※内容に応じてメールで回答させていただきます。
申込み 方 法	Webサイト「相談窓口申込み」 よりお申込みください。 
備 考	相談は無料です。

お問合せ先・最新情報

Webサイト

<https://www.rad-ms.mhlw.go.jp/>

TEL（放射線MS担当直通）
(03)3830-0720

メールアドレス

ms-info@rad-ms.mhlw.go.jp

Xアカウント名

MS導入支援事務局
@rad_ms2022



本事業は、厚生労働省の委託業務として、公益財団法人原子力安全技術センターが関係機関の協賛・協力を得て実施するものです。

協賛：公益社団法人日本診療放射線技師会
一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会